

家畜南瓜の特性と栽培利用法

中野富雄

飼料作物の中で、ちょっと変った存在は家畜南瓜です。これは長期の貯蔵ができるという欠点もありますが、その偉大な収量、しかも消化率の高い豊富な栄養分、放任に近い容易な管理等から考えれば、一名ブタカボチャなどと軽蔑的に呼ばれていますが、なかなかどうして隅におけるないものの、豚どころか、今後牛のためにもつと利用されなければならないものと思います。

論より証拠、ますその収量を見ますと、南瓜の一個の大きさは、大きいものは暖地では二十貫南瓜の名もあるほどで、十五貫程度には優になり、寒冷地でも八~十貫近くまでなり、平均しても三~四貫はあります。これが一株に少くも四~五個はなりますから、一坪半に一株宛植えたとしても反四百貫~四千貫となるわけです。これは机上の空論ではなく、栽培管理にあたつて二三の点に注意して、条件さえそろえば全く容易なのですから、偉大な収量といふのも当然のことでしょう。

栽培の容易なことも、普通の土地気候条件ならば、一、二の注意事項さえ守れば大失敗はありません。元来、生育のために

は相当高温を要するのですが、強健な作物で温暖地はもとより、寒冷な高原、北海道等のどこでもよく生育し結果します。播種期も春先急ぐ必要もなく、整地もさして手数を必要としません。収穫もまた成熟したものから逐次収穫するわけですから、なんら忙しい思いをする必要がありません。こんな栽培の楽な作物はほかになく、この点からも飼料作物として適格なものと言えましょう。

さて、次に栄養の点ですが、第一表と第二表をごらん下さい。

第一表は他作物との成分の比較で、これによれば赤クローバーの青刈には及ばないが、蛋白脂肪等ではかぶ、ビート、甘藷よりも優り、青刈玉蜀黍にも優っています。なほその他の成分としてカロチンに富み、百

第一表 含有成分の比較表	
作物名	水分
甘藷	80%
青刈玉蜀黍	80%
赤クローバー	80%
甘藷	70%
青刈玉蜀黍	70%
赤クローバー	70%
甘藷	60%
青刈玉蜀黍	60%
赤クローバー	60%
甘藷	50%
青刈玉蜀黍	50%
赤クローバー	50%
甘藷	40%
青刈玉蜀黍	40%
赤クローバー	40%
甘藷	30%
青刈玉蜀黍	30%
赤クローバー	30%
甘藷	20%
青刈玉蜀黍	20%
赤クローバー	20%
甘藷	10%
青刈玉蜀黍	10%
赤クローバー	10%
甘藷	0%
青刈玉蜀黍	0%
赤クローバー	0%

参考に私どもの農場における昨年の牛乳生産量の一

部を御紹介すると、第二表

のとおりで九月下旬乳量が

著しく増加しているのはま

さに家畜南瓜のお蔭です。

以上のように極めて優秀

な特性をもつてゐるのです

から、貯蔵性が乏しいとい

う欠点は利用方法または栽培品種の組合せ等によつてカバーしてや

り、その能力を最大限に発揮させることができます。

肝要と思います。

それでは先ず品種のことか

ら考えましよう。

品種には一般にはラージボ

ンキンとマンモスポンキンの

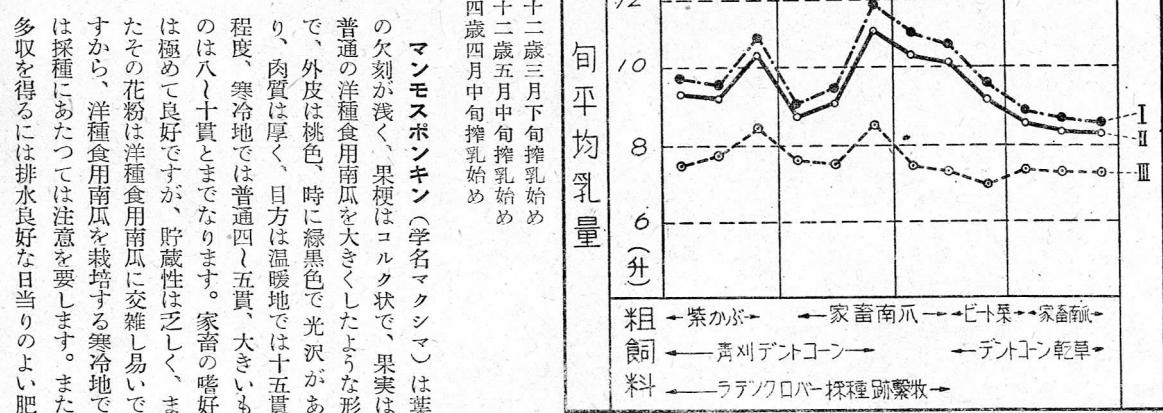
二種が栽培されていますが、

最近アメリカから貯蔵力のあ

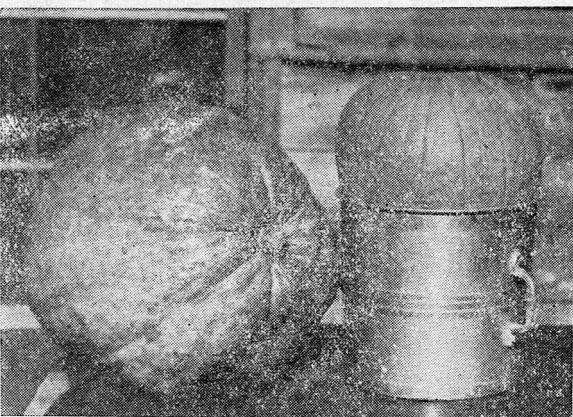
るスマールシユガードといふ新

しい品種も導入されて一部で

試作されております。



普通の洋種食用南瓜を大きくしたような形の欠刻が浅く、果梗はコルク状で、果実は程度、寒冷地では普通四~五貫、大きいものは八~十貫とまでなります。家畜の嗜好は極めて良好ですが、貯蔵性は乏しく、またその花粉は洋種食用南瓜に交雑しやすいですから、洋種食用南瓜を栽培する寒冷地では採種にあたつては注意を要します。また多収を得るには排水良好な日当たりのよい肥



ラージポンキン

マノモスポンキン

沃な土壤を必要とします。

ラージポンキン(学名ペポー)

(学名ペポー)は葉の欠

刻は深く、果梗は硬く五稜をなし、果実は円形・円筒形で、橙色で縦に多数の条溝があり、一箇の目方は普通三~四貫、時に五六貫となり、一株の結果数はマンモスポンキンに比較して多くなります。肉質はやや緻密で貯蔵力も相当高いが、家畜の嗜好性は幾分劣り、始めての家畜によつては馴れるまで暫く日数を要することがあります。しかしこれは、洋種、日本種の食用南瓜との交雑の心配はなく(玩具南瓜とは交雑しません)、あまり土地もえらばず、耕作は極めて容易です。

スマールシュガーアーチ(学名ラージポンキンと同じ)はラージポンキンと似ているが小型で、肉質は極めて緻密で、丁度洋種食用

のデリシャスのような状態で前二種よりも一ヶ月半以上も長期の貯蔵に耐えます。なお小型ですが半節成性をもつておりますので、収穫量が多く収量も相当期待できます。

以上の諸品種を適宜配合して栽培しますと、寒冷地でも年内はもちろん二月頃まで、温暖地では三、四月頃まで生まで給与ができます。

次に栽培上の注意點を申述べましょ

- ①播種は系統の正しい粒形のよく揃つた豊満な種子を選び、あらかじめ準備してある床に五~六粒宛播種します。

床(鞍築)は普通南瓜を準じて行い、肥料は一株に堆肥二貫、過石二十匁、硫酸、カリ各十匁、魚粕四十匁程度を施すか、場合によつては反当り鶏糞三十貫、草木灰三十貫、それに下肥を追肥として百貫程度の自給肥料を用いてもよい。

株間は寒冷地では六尺×六尺、あるいは六尺×九尺が適当で、家畜南瓜は食用南瓜より蔓が繁茂するから、株間は地力にもよるが充分と、あまり狭いのは成績が悪い。

肥料としては、普通のようですが、六尺×五尺が普通のようですが、六尺×三尺くらいとして、反当りの株数を多くし、三本蔓仕立てに摘芯するか、側芽をかいてやるとかした方が収量が多くなります。播種期は晩霜のおそれが多くなつてからで、寒冷地では五月中・下旬、温暖地では四月中・下旬頃から播き始めます。あまり遅れると寒冷地では完熟しないうちに寒くなつたり、温暖地では落果が多くなつたりしますからよくあります。

栽培は、洋種、日本種の食用南瓜と同様で、丁度洋種食用

のですから、この時期に間に合わせるためにも前記の時期に播種すべきでしょ。発芽し、本葉が出たら、遅くとも本葉四~五枚までに引きをして一~二本の良苗を立てるようにします。

②蔓がはびこらぬうちに单作の場合は二~

三回縦横にカルチベーターをかけ、中耕除草をします。幼苗時には「テントウムシダマシ」の被害をうけることがあります。馬鈴薯等の防除に準じて防除すればよろしく。

③特に子葉が食害されるとその後の生育に非常に影響しますから注意を要します。

④間混作としては温暖地では生育期間が百日程度の短期ですから、太麦・南瓜・大根・人参という形式をとり、寒冷地では普通早生または生食用の玉蜀黍を間作とします。南瓜は平面的に生長するものですが、

根へ人参という形をとり、寒冷地では普

通早生または生食用の玉蜀黍を間作としま

す。南瓜は平面的に生長するものですが、

⑤栽培は一般に十二月一杯と考えられます

が、貯蔵法に注意するとか、品種の組合

わせを適当にしますと、二月頃までもたせる

ことがあります。貯蔵のためには前記のよ

うによく完熟させ、寒冷地では霜にあてな

いうちに収穫し、傷をつけないように地下

貯蔵庫に収納するとよいようです。貯蔵場

所の温度は高からず低からず、摂氏一~二

度が適当で、凍結したものはちよつとの暖

氣にあつても直ぐ腐敗します。また、あま

り積み重ねるのもよくありません。温暖地

ではサイレージとして貯蔵することも行われているようです。

以上のごとく比較的栽培容易な作物です

から、傾斜畑とか、雜草の心配ある畑、あるいは隅の耕作不便な三角畑、さらには土堤河原等を利用して作付すれば結構収量をあげられます。また夏の青刈飼料から冬の根菜乾草やサイレージに移る途中のツナギ飼料として、その栄養分を家畜の冬の準備として役立たせることになるわけです。

(筆者)雪印種苗株式会社、上野幌育種場
長)